

PCC NEWS & LETTER

日本赤十字社医療センター緩和ケアカンファレンス

vol.07 2019.3.

2019年3月13日第146回PCC開催



地域の緩和ケア紹介

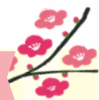
今回は、赤坂慶友クリニックの稲村俊明先生、レディーバグ訪問看護ステーション武蔵小山の足立栄子先生、相馬実季先生、宮本匡代先生から、施設のご紹介をいただきました。

赤坂慶友クリニック(港区)では、質の高い診療を提供するために、学会参加などで不在の際にも対応できるよう、在宅診療を行っている近医とも連携されているそうです。また、診療だけではなく、患者様の心のケアも重視しておられます。切れ目のない関わりでより良い信頼関係を築き、対話をしっかりした上で、今後の療養に関する希望の決定ができるように介入することを大切にされているということをお話いただきました。

レディーバグ訪問看護ステーション武蔵小山(品川区)からは、ご施設の名称についても紹介がありました。レディーバグとは、幸福を呼ぶというてんとう虫のこと。てんとうむしナースが、利用者様の人生に幸せを運ぶ存在になりたいという願いが込められているそうです。ご施設では、小児から高齢者まで、どんな人でも自宅で生活する希望を叶えられるように、さまざまな経験のあるスタッフが揃っておられます。利用者様が公的保険制度にしばられず、住み慣れた自宅で最期まで暮らせるよう、レスパイト介入や、自費訪問看護サービスにも力を入れているそうです。また、質の高い訪問看護ができるよう、新任スタッフの就労応援、学生実習の受け入れ、JNAラダーの取り入れなど、意識の高い取り組みもされています。

このような地域の連携先と協力していけることは、とても心強く感じました。

PCU便り



【 節分 】

2月の恒例、節分のイベントを開催しました。

医師・看護師・ボランティアさんが鬼に扮して、患者さん・ご家族と「鬼は外！福は内！」みんなで楽しいひと時を過ごしました。

第147回緩和ケアカンファレンス

2019年5月8日 19:00~20:45開催予定

第147回PCC教育講演は「がん患者の就労支援の実際や病院との連携について」講師は、ハローワーク飯田橋 岡田 晃 先生です。就労世代のがん患者様も増えていく中、治療を続けていく環境作りが求められています。実際に就労支援を行っている現場からの講演です。

なお、本講演は、日本医師会生涯教育カリキュラムと緩和薬物療法認定薬剤師単位の取得対象になります。ふるってご参加ください。

教育講演 「在宅医療を支える歯科との連携の在り方」

渋谷区口腔保健支援センター プラザ歯科診療所 村田志乃先生

訪問歯科診療の立場からお話くださいました。

日本歯科医師会は平成元年より、80歳で20本以上の歯を残そうという8020運動を推進してきました。その結果、20本以上の歯がある高齢者の割合は増加しましたが、一方で未処置歯のある高齢者の割合は変わらないそうです。その背景として、歯科への受診者数は高齢になるほど減少していくことが挙げられます。

在宅療養において口腔機能の低下は、低栄養や肺炎のリスク因子となったり、終末期では話すことや食べることに影響し、QOLの低下を招くなど多くの問題をもたらす。まず患者さん、利用者さんの口腔や摂食の問題に気づくこと、そして、かかりつけの歯科医院、もしくは地域の歯科医師会に訪問診療の窓口を問い合わせることも大切ということを教えていただきました。

訪問歯科診療では、一般の歯科でできる診療内容はたいてい可能です。また、村田先生は、摂食嚥下機能評価などにも力を入れているそうです。



編集後記

平成30年度のPCCは、皆様のご協力のおかげで、全プログラムを盛況のうちに終了することができました。ありがとうございました。

来年度もどうぞよろしくお願いいたします。今後も皆様と共に、地域の方々を支えられるよう、学んでいきたいと思っております。

